

令和４年度第２回徳島県西部地域政策総合会議 会議概要

- 1 開催日時
令和５年３月１日（水） 午後３時２７分から午後４時２０分まで
- 2 開催場所
西部総合県民局 美馬庁舎２階 大会議室
- 3 出席者
 - (１) 政策総合会議委員 １０名出席
金村委員（リモートで出席）、北島委員、近藤委員、澤田委員、武田委員、
殿谷委員（リモートで出席）、西村委員、藤田委員、真鍋委員、吉田委員

計画推進評価部会 １名出席
篠原副部会長（リモートで出席）
 - (２) 管内市町 ３名出席
三好市 高井市長、つるぎ町 古城副町長（リモートで出席）、
東みよし町 川原副町長
 - (３) 県関係
飯泉知事、藪下局長、東條副局長、安西地域創生観光部長、
和田保健福祉環境部長、柿原農林水産部長、土井県土整備部長、
橋本政策調査幹 他
- 4 会議次第
 - (１) 開会
 - (２) 議事
次期「西部圏域振興計画」の方向性について
 - (３) 意見交換
 - (４) 閉会
- 5 配付資料
 - 資料１ 徳島県西部地域政策総合会議委員名簿
 - 資料２ 令和４年度第２回徳島県西部地域政策総合会議 配席図
 - 資料３ 徳島県西部地域政策総合会議設置要綱
 - 資料４ 第５期「西部圏域振興計画」の策定方針
 - 資料５ 「西部圏域振興計画（第５期）」（２０２３年度～２０２６年度）の基本的な
考え方（案）
 - 資料６ 次期西部圏域振興計画「長期ビジョン」（案）
 - 資料７ 次期西部圏域振興計画「中期プラン」（案）

（副局長）

ただ今より、令和４年度第２回徳島県西部地域政策総合会議を開会いたします。

（局長）

委員の皆様方、また、市長、副町長の皆様方には、大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日は、令和元年度に策定いたしました現行の「西部圏域振興計画（第４期）」の計画

期間が、今年度をもって終了となることから、来年度以降の第5期「西部圏域振興計画」の方向性について、事務局よりご説明させていただいた後、委員の皆様から、次期計画や西部圏域の振興について、ご意見を賜りたいと存じます。

本日いただきましたご意見などは、事務局で会議録として調整させていただき、委員の皆様にご内容をご確認いただいた後、お名前を除いて県のホームページで公表させていただきたいと考えておりますので、あらかじめご了承くださいませよう、よろしくお願いいたします。

それではまず、次期計画の方向性について、事務局から説明をさせていただきます。

（事務局）

資料4、5、6、7により説明

（局長）

それでは、次期計画の方向性また圏域の振興全般について、順にご意見を賜りたいと存じます。

（委員）

今回の会議の議題が、次期計画の方向性についてですので、私からは中期プランの5つ目「"強み"を活かした地域経済の発展」の中から、特産品の販路拡大について、少しコメントさせていただきます。私は今、にし阿波観光圏で取り組んでいるインバウンドをターゲットにした千年のかくれんぼブランド認証委員会で委員を務めさせていただいていますが、今年度も、にし阿波ならではの素材を活かした食や工芸品などの特産品が、新たにたくさん認証されております。これらは、生産者の皆様方の思いがこもった、にし阿波を代表する特産品であると感じております。また、弊社が毎月1回運営しているみかもマルシェでは、東みよし町を中心に、県西部の皆さんが野菜、果物、パンやハンドメイドアクセサリーなどを持ち寄って販売してくださっています。近くの農園で採れた野菜や果物は、早々に売り切れるものもあり、にし阿波の物産の素晴らしさを消費者が本当によく知っているからだと思っております。そうした意味で、にし阿波には魅力ある特産品が、たくさんあるということです。そして、まだまだ認知度を高めていく必要があるとも感じています。そこで、中期プランにあるように、これらの特産品の販路を拡大させ、地域に経済効果をもたらし、地域活性化に繋げることは大切な取り組みだと考えております。

徳島県におきましては、にし阿波の特色のある食や工芸品の販路拡大のため、千年のかくれんぼブランド商品の認証数拡大や、物産展、イベントでの展示販売により認知度向上を図っていただいているとともに、半田そうめん食堂が提供した千年のかくれんぼブランドの食材を利用したスペシャルメニュー開発のように、新たなチャレンジにも取り組んでいただいております。また本日、東京で、にし阿波の物産展を開催していただいております。今後、2025年大阪・関西万博の開催時には、にし阿波にも多くの来訪者が予想されるということで、物産戦略の重要性がますます高まると考えられます。

つきましては、効果的なプロモーションを実施し、にし阿波の特産品をはじめとした徳島の魅力発信に今まで以上に取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

（委員）

私からは中期プランの4つ目「誰もが健やかに暮らせる地域の実現」について、少しお話させていただきます。私自身、子育て真っ只中で、病気を発症して障がいと向き合いながら、今も子育てに奮闘しています。障がいを持ちながら子育てを経験して初めて、足りない支援に気づきました。それが移動支援の不足です。今ある移動支援は、お母さんの通院、買い物など範囲も時間も限定的です。そして、子どもの移動支援はそこに含まれないので、子どもの通院、習い事には利用できません。私の場合、子どもが徳島市内の病院に毎月通院していて往復に約3時間かかります。移動支援サービスはあるのですが、値段が高くて利用しにくいいため、家族の支えがどうしても必要です。私だけでなく、子ども達に

も移動支援が利用できるようになることで、家族の負担も減ります。そして、障がいを持ちながら1人で子育てするお母さんの自立にもつながります。

ここまでは、私の実体験に基づいた意見ですが、他にも様々な悩みを抱えながら、子育てに奮闘されている方がいます。産後鬱の問題もそうです。育児に悩んでも、相談することができず、ずっと1人で抱え込んでいるお母さん、ひとり親家庭で仕事と子育てを頑張っているお母さん、物価の上昇などで生活が厳しくて2人目以降を産み育てることに躊躇されているご夫婦など、多くの人が悩みを個々に抱えて子育てを頑張っています。こうした人達が、誰もが子育ての喜びを実感できる社会の実現に向けて、地域のボランティア団体や民間団体、自治体とがつながり、協力して一緒にチーム育児を目指し、全ての子どもが安心安全に成長できる「こどもまんなか社会」の構築を進めていきたいと思っています。

(委員)

夏は標高900mの高冷地で、冬は平地で1年を通して野菜栽培をしています。私が就農した20年前より、新規就農のための給付金や研修制度など各施策により、新規就農者のための条件整備が整ってきています。しかし、20年前よりも人口が減少し、JAの統廃合、地元商店の閉店など、中山間ならではの問題も出てきています。地産地消という言葉がもてはやされていますが、もはや地元、ひいては徳島という枠では需要のキャパは超えているようにも思えます。すでに京阪神への出荷を行っています。これを関東、そして世界へ広げていくためには、ITを活用し、にし阿波のロケーションやストーリーを野菜に融合させて発信していく必要が出てきていると思います。そのためには私のような固い頭の人間ではなく、柔軟で固定観念に縛られていない若い人材を育てていく環境を作りたいと思っています。にし阿波だからできるスマート農業を目指してみんなで頑張っていきたいと思っています。

(委員)

私からは、観光について意見させていただきたいと思っています。中期プランにある「観光・移住・交流によるにぎわいの創出」として重点的に取り組むということで、その内容を確認させていただいて、この内容にすごく賛同しています。また、私が所属する青年会議所においても、コロナ禍をやっと乗り越えてきて、穴吹リバーパークス、今年は県内の小学生を対象にしたわんぱく相撲徳島場所と、徐々に地域と連携したイベントの開催・再開に取り組んでいます。地域の活性化を図り、更には私達が賑わいを起こして、観光客の増加に繋げていきたいと考えています。

こうした中で、2025年大阪・関西万博の開催というのが、観光客誘客の最大のチャンスになると考えています。万博は、世界中から人が来られて、徳島に足を運ぶきっかけになるということで、この機会をチャンスと捉えて、地域イベントをはじめとする徳島の魅力を広く発信していきたいと考えています。その時は、徳島県、地域の人達と一緒にやっていきたいと考えています。

(委員)

西部防災館にて、小中学生が防災について学び、体験するイベント「まなぼう祭」を毎年開催しています。今年度は地震をテーマに、地震体験車による地震の模擬体験や阪神淡路大震災の体験談などを実施し、美馬市から脇町中学校、岩倉中学校、三島小学校、つるぎ町から半田中学校、貞光小学校の生徒が参加したと聞いています。また、西部総合県民局が実施している出前講座では、美馬市の岩倉中学校、三好市の王地小学校、つるぎ町の半田小学校、貞光小学校、東みよし町の加茂小学校、足代小学校などから依頼があり、防災の正しい知識や大規模災害に備えた実践的な講座などを実施していると聞いています。

本日の会議資料、長期ビジョン案の2つ目の柱にもあるように、人と人、人と地域をつなげるソフト面での防災の備えができていく地域は、防災面だけに限らず、育児や子育ても含め、誰もが安心して暮らしていける地域にもつながっていくと思います。過疎高齢化が進み、防災力の低下が心配ですが、徳島県の未来を担う人材育成として、小中高生が災

害時に地域の防災リーダーとして活躍できるよう、地域の小中高生を対象とした防災学習の取組を一層進めていただきたいと思います。

（委員）

私の携わっている三好ジオパーク構想ですが、2017年から活動を開始し、2020年に、地域の関係者や行政、研究機関から構成される推進協議会を発足して、少しずつですが着実な活動を皆さまと共に進めていくことができています。今年度は、隣接する東みよし町さんにもこのメンバーに入っていて、三好市だけでは語る事のできない、より深く徳島県の西部エリアの生活文化や産業、そしてそれらの関係する「ジオ」との関わりを、様々な形で展開しつつある状態です。

今回、次期計画を見せていただき、中期プランの中で「観光・移住・交流によるにぎわい創出」というものを書かれていますが、その中の柱として、「雄大な自然や豊かな風土、また、ここでいきいきと働き・暮らす人々は多くの人を魅了する」と記述がありますが、実はジオパークの中でも、「ジオ」というものをベースにしながら、自然と人とのつながりを様々な形で活動の中で展開していて、すごく共通するところだなと思っていきます。実際に私達の中でどのような活動をしているかということ、直近でいうと4月1日に、地域のガイドさんや関係する施設の方々と協力して、三好市と東みよし町をつなぐジオツアーをする予定です。三好市井川町にある辻駅から美濃田の淵までをつなぐウォーキングイベントという形で初めての試みをさせていただきます。もちろんこのツアーも1回だけではなくて、継続性のあるものにつなげていきたいと思います。

このように私達の活動は、着実に皆さんと一緒に進めてはいるのですが、ジオパークは認定審査があり、我々は近い将来、認定審査に挑もうと思っております。昨年秋に開催された三好ジオパーク構想推進協議会では、2024年度に日本ジオパーク認定審査を受けることを目指すことになりました。この活動においては、県民局の方々をはじめ、多くの方のご協力をいただきながら推進できているのすごく有り難く思っています。引き続き、より地域が団結していける取り組みを、私もも行いたいと思いますので、県にはご協力、後押しをいただければ有り難いと思っています。

（委員）

緩やかにコロナが収束してきて少し希望が見えましたが、1番の問題は働き手がいないことです。このことは、市も関係各所の方も移住に大変力を入れていて、本当に移住する方もいますし、お試し移住をする方もいます。私は、移住したけどまた県外に転出する方の話を聞きました。1番のネックを聞くと、小児科がない、病院がないということでした。子どもを産んだ後にその点が心配。ちょっと重い病気だと香川県に行かないと病院がない。今、本当に小児科がなくて大変な状況です。病院を作れという話ではなくて、オンライン診療などを誰もが簡単に、オンラインは恐らく24時間できると思うので、子どもが熱が出た時には大変力強いと若い方の話を聞き、切実に必要だと思いましたので、中期プランの「誰もが健やかに暮らせる地域の実現」の中に、オンライン医療を入れることを考えていただきたいと思います。

この場では少し関係ないかもしれませんが、「THE RIVER FACE」というラフティングチームがあります。ここでも人手不足で、4人で頑張っていました。今は2人になってしまい、チーム練習の参加は休まざるを得なくなりました。この2人は個々に練習をして、6月には違う方とチームを組んでイタリア遠征に行ったり、ラフティングを続けようとしています。ここでも本当に人が少ない、大変なことになっていますが、また復活できましたら、以前のように応援をよろしくお願いしたいと思います。

（委員）

私からは1番目の中期プラン、主な施策の方向性の4段目にある観光関連施設のDX推進、観光人材の発掘・育成について、さらに女性のDX人材の育成を追加していただきたいというお話をさせていただきます。県事業として、女性のDX人材育成事業を弊社で担

当させていただきました。今週末には事業を終えますが、その中で女性の感性、コミュニケーション能力を活かしたDX人材の発掘が急務と感じました。先ほどのオンライン診断に関しても、DXが身近なお母さんとそうでないお母さんであれば、不安に思うことの違いがあるのではと、お聞きしながら思いました。女性のDX人材育成は、地方にいたながらも都市部と変わらない仕事ができ、女性の経済自立にもつながります。人口が減少していく中でも、関係人口をつなぎながら、地方でも同じ仕事ができ、いろんな方に関わりながら地方の人手不足や知識不足を補っていくこともできると思います。「とくしまフューチャーアカデミー」でも、全国で注目される女性のリカレント教育をして成果を出していると思います。にし阿波から女性のDX人材育成を、もう少し強めていけないかと思っておりますので、どうぞ思案していただければと思います。

(委員)

阿波池田商工会議所で、先月25日に3年ぶりの四国酒まつりを開催しました。県内外から1,800名を超える人に来ていただいて、地元のお酒をはじめ、四国のお酒を楽しんでいただきました。今後とも、地域経済、地域が活性化するように企画して参りたいと思っていますので、よろしくお願いします。

次期計画では、中期プランの中について、少しお願いさせていただけたらと思います。まず経済ですが、コロナ禍が明けるにあたって商工会議所では、いろんな方にアンケートをとっています。昨日が締め切りでまだ集計できていないのですが、コロナ禍にプラスして原材料、エネルギー価格の高騰、あとは地域の衰退ということで、やはり苦しいという話が出ています。また人材不足、担い手不足で廃業を考えられてる小規模事業者も多くおられると言われています。ゼロ金利も終わり、本当に厳しい環境が予想される中、県に依存する訳ではないですが、会話・情報交換をさせていただきながら、実施していただける支援を模索しながらお願いしたいというところが1点です。

次に観光ですが、本当にこの西部地域、豊かな風土と文化は言うまでもなく、それにプラスしてアクティビティといろんな楽しみ方ができる地域だと思っています。本当に老若男女楽しんで帰っていただける地域だと思っていますので、観光プロモーションの中で、本当に幅広い楽しみ方ができ、それにプラスして今県で推進されている例えばeスポーツなども加えたような、観光プロモーションを考えていただけたらと思っております。

最後に、三好病院の診察棟の整備など、三好病院が県西部及び四国中央部の医療の中核病院として整備が進んでいることには本当に感謝しております。そこで医師の方には、アフターコロナ及びCCRCの観点、認知症やフレイル予防の観点から、地域ともしっかり連携を密にしながら講座や教室の実施を考えていただけると、お年寄りも多い地域としては心強いと思っておりますので、この点もよろしくお願いします。

(委員)

私からは世界農業遺産に関する意見を2点ほどお願いします。1点目は、世界農業遺産を通じた国際交流についてです。これまでも国内外への情報発信に取り組んできたと思いますが、傾斜地農業を今後も維持・発展させるため、国外の似た地域、地形や作物が似た地域と交流を深めて、情報の共有や学びを得る機会が必要だと思っています。地域資源の共有が図られることで、より洗練されたアイデアの創出、地域間連携、観光交流といった新しい人やモノの流れを作ることにつながるとは思っていますが、これまでに県や協議会で実施してきた取組があれば教えてください。

2点目は、世界農業遺産を活用した教育についてです。にし阿波地域には素晴らしい伝統農業が残されているにも関わらず、後継者不足が問題となっています。集落危機とか少し重たい話になると皆後退りするので、小学生の頃から課外学習などを通じて集落に入ったり、農家さんとの交流の中で、幼い頃からの意識付けが大切だと思います。また、子ども達が学んだことを自分のものにして自ら発信する機会があればいいと思います。そういう部分をどのように考えているのか教えていただきたいです。

(局長)

以上で、ご出席の10名の委員の皆様からご発言をいただきました。1点ご質問をいただきましたので、事務局から回答させていただきます。

(事務局)

世界農業遺産を使った国際交流と、子ども達への学習について、ご質問いただきました。

まず1点目、国外地域との交流ですが、徳島剣山世界農業遺産推進協議会や地域の方々と連携しまして、国際会議への参加や、傾斜地を活用した独自の農業普及システムの構築を目指すインドのミゾラム州から視察団を受け入れるといった取り組みをしています。新型コロナ禍となり、現地に赴いたり海外から来ていただくことが難しい状況になってからは、このような中でも交流を進めるよう、オンラインで国際シンポジウムへの参加を行い、情報交換に努めているところです。

2点目の後継者の育成につなげる子ども達への学習ですが、協議会と連携しながら、小中学生に対する出前授業や現地学習の実施、地元高校においては、地域の「食と農の名人」にインタビューを行い、聞き取った内容を名人本人の言葉でまとめる「聞き書き」や、廃棄茶葉を使用したお茶染物作品の制作といった取組を進めており、子ども達に地域の暮らしや文化、技術の理解を深めてもらっています。そうしたものを子ども達が発信する場を設けては、というお話でしたが、これら成果を世界農業遺産シンポジウム等において、生徒自らが発表することで自分のものにし、自らの言葉で説明することで同年代への共感の広がりにもつながるという風に考えています。

引き続き、協議会と連携しながら、国際会議への積極的な参加、国外地域とをつなぐ国際交流に取り組んで参りたいと考えております。また、生徒達が主体的に学び、その成果を発信できる機会の創出にも取り組んで参りたいと思っていますので、ご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いします。

(局長)

本日は、計画推進評価部会の副部会長にオンラインでご参加いただいておりますが、ご発言を賜ればと思います。

(副部会長)

私は、評価部会で評価するという立場で、今後作られる行動計画に主に関わっていくことになると思います。今回の長期ビジョンや中期プランが達成できるような行動計画になるよう、評価部会でしっかりと評価していきたいと思っています。

(局長)

本日、市町からもご出席を賜っています。まず、高井三好市長お願いいたします。

(高井三好市市長)

本日、次期計画の基本的な考え方を拝聴しまして、ご意見というか、お願いも含めて申し上げたいと思います。特に、資料5の中期プラン1「観光・移住・交流によるにぎわい創出」における情報発信の強化部分についてです。新型コロナについては、感染症法上の位置付けがいよいよ5月8日から、季節性インフルエンザと同じ5類に引き下げられます。観光事業者の皆さまはじめ地域経済を支える皆さまには、長いトンネルを抜けてやっと光が見えてきたような思いがあるように思います。先週の四国酒まつりは、ガイドラインに則って感染拡大防止対策を取って実施しましたが、皆さん口々に「来てよかった」、「やってくれて良かった」、「楽しかった」、「来年も来よう」と言いながらご機嫌でお帰りになる様子が見られ、私も大変嬉しかったです。こうしたプロモーションは、これまでは感染拡大防止を取りながらでしたが、今後、経済活動が再開していくと、対策の取り方に戸惑うのは確かだと思います。こうしたものをある種振り払い、官民、住民も一体になって一気呵成に営業を進めていき、次の展開につなげていくには、やはり県のリーダーシップ

が必要ということで、お願い申し上げたいと思います。

また、世界農業遺産に関しましても、地域の生産者とつながって事業を積極的、主体的に進めていくのは市町であり、私達の強みでもあると思うのですが、先ほど回答があった国内外の人々との交流であったり、国際会議への参加や視察などは、市町だけでは難しいところがあって、既に県にもずいぶん力を入れて、力を貸していただいておりますが、広域的な発信や企画プロデュースの部分は、やはり県が中心となって実施していただく方がより強力に提言や発信ができると感じているところです。次の4年間の次期計画を進めていただくには、各事業における、いわゆる県と市町との連携組織の体制を抜本的に見直し、連携をより強め、役割分担をしっかりとすることで、より機能するものと考えているところです。総合的な情報発信や取りまとめは県にさせていただいて、各事業をそれに基づいてしっかりと進めるのは市町というように役割を統一、明確にすることで、大阪・関西万博、ワールドマスタースゲームを見据えた取組の成功につないでいけると思いますので、是非、西部総合県民局における推進体制の強化の方をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(古城つるぎ町副町長)

各委員から様々な提言、活動の報告をお聞かせいただきました。私どもも皆さま方と連携しながら、関係人口また生産年齢人口を増やすための努力を共にしていきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

私からは、中期プランの中から意見を申し述べさせていただきます。中期プラン1番目「観光・移住・交流によるにぎわい創出」の目指すべき10年程度先の姿の4番目に「高速交通ネットワークや観光地へのアクセス道路の整備が進み、観光・交流人口が大幅に増え、地域のにぎわいが創出されています」とあり、中期プラン2番目「豊かな地域環境の未来への継承」には、日本の宝、剣山国定公園の魅力とあります。確かに観光地のアクセス道路のうち、国道32号、国道492号、国道439号は整備が進んでいると考えていますが、国道438号、特に、平成7年度から進められている道路改良事業「宮平バイパス」全長2.4kmの完成は未だ見えていません。10年程度先には、アクセス道路の整備が進んでいるということですので、よろしくお願いを申し上げ、私からの意見とします。

(川原東みよし町副町長)

私からは、中期プランの3番目「安全・安心な地域づくりの推進」に関して、本町が令和5年度から新しく取り組む2点をご紹介します。1点目は、防災におけるDX推進として、防災情報、生活安全や町からの緊急のお知らせをする防災アプリを導入しまして、住民の個人スマートフォンや携帯電話に直接お知らせすることで、発災時や緊急時に生命や財産を守る行動に移るための必要な時間を最小限にできるものと考えています。また、平時における町からののお知らせは、LINEを活用することを検討しています。

次に、地域公共交通の確保、維持についてです。本町では日常生活に必要な公共交通サービスを享受できる社会基盤として、地域交通、地域公共交通網の構築を目指しており、現在は、高齢者移送サービス、タクシー利用助成をやっているのですが、今後は新しく乗合タクシーを導入し、交通機関空白地域の解消、運転免許を返納しても安心して暮らせる町づくりを目指そうと考えております。引き続き、2市2町が特色ある発展が出来ますようご尽力いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(局長)

最後に、飯泉知事からお願いします。

(飯泉知事)

本日は、第2回徳島県西部地域政策総合会議の開催にあたりまして、皆様には大変お忙しい中リアルで、そしてオンラインでご参加いただき、本当にありがとうございました。お聞きしていて、やはり皆さま方のお考え、県も同じなのですが、いよいよアフターコロ

ナ、こちらに向かっていると感じたところであります。例えば、ご商売をなさっている場合には、当面、1番大きな課題になっているのは人手不足。あらゆる業界で今、人手不足。実は、官公庁も人手不足になっていて、ごそっと辞めてしまうことが中央省庁で起きております。そして、そこを穴埋めするために地方から来て欲しいと、徳島から毎年20人くらい割愛ということで国の職員として送っているのですが、「もっと」との声が非常に強くなっている。官民問わず、人手不足が今の日本の共通の課題。

それから、やはりインバウンドに対する期待が非常に高いのではないかと、こうした思いを強く致しました。5月8日からコロナは、2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類になり、こうなって参りますと、かつてのにぎわいをしっかりと取り戻せるであろうということで、そうした意味でのインバウンドへの期待。さらに、徳島全域で期待が高まっているのは、約2年後に迫った大阪・関西万博。前回1970年に千里で開かれた万博と大きく違うのは、徳島県もいわゆる誘致の主体であり、関西広域連合全体で誘致したとなると、当然、大阪・関西万博を成功に導かなければいけないということになっています。国内外の皆さま方を徳島にリアルで、或いはオンラインの場合、これからはメタバースを活用した3次元仮想空間における没入感。しかも今ある最先端の5Gから、大阪・関西万博では国是としてその先のBeyond 5G。総務省はいわゆる6Gとも言っていますが、世界から周回遅れの日本の技術をなんとか追い付け追い越せ、大阪・関西万博で、ということになっております。大阪・関西万博に対する様々な分野の皆さま方の期待、商売に関わる皆さま方は、いかに国内外の方に徳島に来ていただくか、研究者の皆さま方は、新たな未来技術の具現化、大阪・関西万博は未来技術を試す絶好の場でもあります。そうした施策については、国のモデル事業であったり、国の補助金が非常に付きやすい傾向もあります。皆さま方から頂きました、アフターコロナ、そしてポストコロナ新時代、こうした点についてはしっかりと我々として咀嚼をさせていただき、徳島県として、県では難しいものは、例えば全国知事会、或いは関西広域連合として国にしっかりと政策提言、こうした形で求めていきたい。

さらに徳島にはもう1つあります。ワールドスポーツの祭典、ワールドマスタースゲームズ関西。こちらが2027年ということで、2年飛び飛びで徳島が国際的な大会の主催者になり、そして多くの皆さま方が徳島に誘われるということになります。観光事業者の皆さま方には、そうした点につきましても、しっかりと捉えていただいて、アフターコロナ、そしてポストコロナ新時代、これをしっかりと掴みとっていただきたい。当然、そこに向けて徳島県として、皆さま方と共に進めていくことができれば。

そしてもう1つ大きいのが、食の問題。食の安全保障という言葉がありますが、まさかの戦争。これによってあらゆる物資が高くなる、或いは海外から物が入ってこない。典型的なのが農業における肥料、硫酸はじめ様々な肥料を海外に依存している。しかもそのエリアが悪く、ロシア、ベラルーシ、ウクライナなのですが、入ってこなくなる。そこでモロッコからとなりますが、モロッコからすると商売相手が既に決まっている。そこへ割り込んでいって日本へとなると、当然高くなる。国におきましては、有機農業をはじめとする観点から「みどりの食料システム戦略」を打ち上げ、徳島県におきましては、今年度中にこの戦略の基本計画を作り上げ、新年度からこれに則って進めていく。子育て世代、或いは女性の皆さま方が非常にこの分野に関心が高いということで、徳島県では、エコファーマーによる農業・特別栽培・有機農業・GAPによる農業をまとめて「エシカル農業」として、進めようとしております。先ほども農業を担う若い人材育成をとお話がありましたが、農業はもとより林業、水産業で今までとは違うものを打ち出して行く、まさに今こうしたことが求められているところでもあります。徳島の中でも中核的に行なわれているのが、ここにし阿波になりますので、皆さま方におかれましてもご支援、或いはスケールメリットをお考えいただき、マイルストーンも踏まえてという形で進めていただければ有り難いな、そのように思っています。本日は本当にありがとうございました。

(局長)

本日は長時間にわたりまして、貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。本

日いただきましたご意見につきましては、次期の第5期西部圏域振興計画、また今後の西部圏域の振興にしっかりと反映させて参りたいと考えております。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

(副局長)

以上をもちまして、令和4年度第2回徳島県西部地域政策総合会議を閉会いたします。